

男女共同参画の視点を盛り込んだ 地域防災意識普及啓発事業

福岡ジェンダー研究所

×

志免町生活安全課

解決しようとする地域課題

地域防災に男女共同参画の視点を盛り込みたい！

志免町では防災ハザードマップを作成し、防災・減災における自助・共助の取組の必要性を呼びかけているが、男女共同参画の視点を取り入れた普及啓発については、あまり進んでいない状況である。

【担当課の強み】

防災に関する専門性

【担当課の弱み】

生活者の多様な視点を反映した防災対策を講じることが難しい



【団体の強み】

男女共同参画に関する専門性

【団体の弱み】

防災に関する専門性は高くない。
また、志免町で取り組むにあたって地域組織と関係性を構築するのが難しい

事業の概要

町の防災ハザードマップの内容を踏まえ、男女共同参画の視点から、「災害リスク軽減」（平時から災害に対する脆弱性や災害リスクの軽減を目的とした対策を講じること）や、災害に強いまちづくりへの実践的な手引となる防災ハンドブックを作成する。

将来的にこの防災ハンドブックを活用した普及啓発を行うことにより、生活者の多様な視点を反映した、地域の防災力向上に貢献することを目的とする。

実施内容（1）

■ グループインタビューの実施（R3.7～10月）

普及啓発の主な対象を「子育て家庭の保護者」とし、町内で活動する2団体へインタビューを実施した。

● A-kid's ～志免町アレルギーっ子の会～

- ・団体メンバー4名が協力

● 志免町障がい児・者団体連絡協議会「こころのまど」

- ・団体メンバー3名、志免町社協職員1名が協力

グループインタビューの様子



実施内容（2）

■ハンドブック原案の読み合わせ会（R4.2月）

グループインタビューに協力していただいた2団体とともに、ハンドブック原案の読み合わせ会を実施した。

● A-kid's ～志免町アレルギーっ子の会～

- ・団体メンバー3名が協力

● 志免町障がい児・者団体連絡協議会「こころのまど」

- ・団体メンバー2名、志免町社協職員1名が協力

※対面での実施を予定していたが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、オンライン会議ツールを用いて実施した。

ハンドブック原案の読み合わせ会 (コロナ禍のため、オンラインツールを活用)



実施内容（3）

■ ハンドブックデータ作成（R3.5月～R4.3月）

● 男女共同参画の視点からの情報収集

- ・ 備蓄、要配慮者、DV・虐待防止、性犯罪防止、避難生活での心がけ等について情報を収集した。

● 町民へのイラスト制作協力呼びかけ

- ・ 1名の協力を得て、ハンドブックの内容に合わせて複数点のイラストを制作していただいた。

● ハザードマップ^o、町の取り組みとの整合性の担保

防災ハンドブックより抜粋

わたしの 防災 ハンドブック

～「いつも」を「もしも」に～



〈2. 避難所での過ごし方〉

災害時は、混乱に乗じて女性や子どもへの暴力・性暴力が発生しやすくなる
ことがありますので、注意が必要です。また避難所では少しでも安心・安
全・快適に過ごすために女性の視点を取り入れた運営が大切です。

①防犯対策

- ・人目につきにくい場所や夜間は一人で出歩かない
- ・出かけるときは周りに声をかけてから
- ・遠慮せずに意見を伝える：トイレを男女別々にして、など
- ・女性ひとりにならない
- ・子どもや障がい者は周りが配慮して一人にしない。トイレなどに一人で
行かせない。
- ・知らない人からの声掛けに注意する：「うちはお風呂が使えるからどうぞ」と
家に誘い、女性に暴力をふるう事件がありました。



②避難所で困ること（体験談から）

- ・洗濯物を干す場所が男女兼用だった。そのため、下着の盗難の不安や男性か
らの視線が気になったため、女性は遠いコインランドリーまで通った。
- ・授乳室・更衣室がなかったので、毛布をかぶって授乳したり着替えたりした。



生理用品や女性上下着の配給を男性運営者が行っており、
必要時にその男性に申し出なければならず、「欲しい」と
言いにくかった。

知らない男性がその場で裸になって着替えるので
（通常時はセクハラになるのに）非常時だからと
我慢しなければならなかった。



同じ避難所の男性に性暴力をふるわれた。しか
し、被害のことを言ってしまうと避難所にいら
れなくなるかもしれないという不安で、その
ことを誰にも言えなかった。

- ・避難所において一部の男性に過度な責任が集中した。
- ・「男性はこうあるべき」という固定観念に縛られ、弱音を
はいたり、愚痴を言ったりできなかった。



男性の声

事業の役割分担

目的：生活者の多様な視点を反映した地域の防災力向上

対象：志免町民

内容：男女共同参画の視点を盛り込んだ防災ハンドブックの作成

生活安全課

- ・ハンドブック作成に必要な防災関連情報の提供および助言
- ・インタビュー候補団体の情報提供、紹介
- ・イラストを描ける町民への声かけ
- ・読み合わせ会への参加
- ・ハンドブック作成原稿の校閲および校正

福岡ジェンダー研究所

- ・ハンドブック作成に関する企画運営全般
- ・男女共同参画の視点に必要な情報の収集
- ・グループインタビューの実施
- ・読み合わせ会の企画運営
- ・ハンドブック原稿作成～編集

事業の成果・効果

成果（目標達成度）

成果指標	提案時の 現状値	事業終了時 の目標値	事業終了時の 実績値
防災ハンドブックデータの 完成	0%	100%	100%
ハンドブック作成過程に おける町民意見の反映率	0%	70%	70%

効果

- ・グループインタビューを通して、平時、発災時における実践的なノウハウを収集できた。

協働のプロセスに対する自己評価

課題・目的・目標の共有 上記3つについて明確化の上共有しながら事業を進めることができたか。	○
相互理解 お互いの立場や行動の違いを理解し、 お互いを尊重しながら事業を進めることができたか。	△
対等・自律 対等な立場で自律的に事業を進めることができたか。	○
役割分担 協定書で定めた役割分担に基づき、 お互いが責任を持って事業に取り組むことができたか。 協定書で定めていない役割についても、双方協議の上分担することができたか。	○
情報共有・意見交換 事業についての報告や情報共有、意見交換などを密に行うことができたか。 双方が進捗状況を確認すると共に、意思疎通を図ることができたか。	△
情報公開 事業の進捗状況や成果などについて、ホームページや広報物などを活用して、 積極的に公開しながら事業を進めることができたか。	△

今後の課題と改善策、 令和4年度の取り組み状況

■ 今後の課題と改善策：

- ・取り組みや成果効果の情報発信
- ・町民に向けた地域防災意識の普及啓発

■ 今年度の取り組み状況：

- ・作成したハンドブックを活用した防災講座の実施
(親子向け、子育て家庭向け、保護者向け)